

## 第5回 水力発電事業の民間譲渡に伴う宮川流域諸課題の解決のための プロジェクト会議（宮川プロジェクト会議）概要

日時：平成20年5月20日（水）10時～12時  
場所：エコミュージアムセンター宮川流域交流館たいき  
（度会郡大紀町阿曾429）

出席委員：中村進一座長、青木謙順副座長、笹井健司委員、大野秀郎委員、野田勇喜雄委員、西場信行委員、藤田正美委員、真弓俊郎委員、森本繁史委員、今井智広委員

欠席委員：稲垣昭義委員

参考人：林紘典氏、西要司氏

傍聴者：5名

事務局：内藤企画法務課課長、川添副課長、福井主幹、石田主査

### 1 概要

宮川流域ルネッサンス事業の流域案内人として、宮川流域の自然や歴史、伝統的な暮らしを、地域の人や訪れた人に伝える活動をしている林紘典氏、西要司氏を参考人と招致し、流域案内人としての取り組みや、水力発電事業の民間譲渡に伴う宮川流域諸課題についてご意見をいただきました。

その後、両参考人と委員との意見交換を行いました。

最後に、宮川プロジェクト会議の今後の進め方について、委員討議を行いました。

午後からは、長発電所滝原取水堰堤、長ヶ逆調整池、三瀬谷発電所（いずれも大台町）を実地調査しました。

### 2 参考人の主な意見

- ・ 取り組みとしては、ワークショップを開催したり、宮川の水質検査を毎月1回行っている。子どもたちに宮川の現状と将来のことを伝えていくのが役目と思い、小学生たちと宮川のごみの清掃を行ったり、昔の宮川の様子や棲んでいる魚の種類を教えたりしている。
- ・ 流量回復については、瀬という流れの強いところが川の浄化作用をしていた。流量がある程度ないと瀬はできない。今までの大量の砂利採取も（瀬ができない）一つの原因に

なっているのではないか。

- ・流量回復については、宮川ダムの大杉のところで水を落として発電をしていたら、ある程度の流量が確保できるのに、自然を破壊して、紀伊長島へ流していることが解せない。
- ・行政の方で色々なコントロールをしていたものが、民間譲渡されると、今までのような主張が通っていくのか、今後、どうなっていくのか不安である。
- ・流量回復について、水が少ないと瀬がなくなり、淵が増えて、魚類の生態系が失われていくことが心配である。宮川ダム、栃原の三瀬谷ダムが建設され、流量が極端に減った弊害と感じている。
- ・今の時代にやっておかないと、後世に素晴らしい川や遺産を残すことができなくなってしまおうと思う。もとに戻すことはできないが、我々は今後、これらを取り戻して、ある程度回復させ、後世に伝えていく義務を負っており、努力していきたい。
- ・鮎が海から上ってくる場合、魚道の形態により上れるものと上れないものがある。今からでも改良を加えて、鮎が上流に上れるようにしたらどうか課題としてある。
- ・宮川にとっては、生態系の確保、漁業資源の確保が大きな問題であるので、それに配慮した対策を立ててほしい。

### 3 委員と参考人との主な意見交換

(真弓委員)

堰やダムを取っ払えという議論もあるが、宮川ダム直下の水量回復が一番望ましいというふうにお考えか。

(西要司氏)

宮川直下の水は0.37 t/sから0.5 t/sに増やしているが不十分。最終的には2 t/s放流すれば、宮川も相当回復すると思う。

(野田委員)

紀伊長島町海山区では、河口の砂利を採ってこなかったことによって、オーバーフローし、町中へ水が入ってきた(平成16年の水災害)が、砂利採取はやめた方がよいという認識か。

(林紘典氏)

三瀬谷ダムまでは、砂利が押し流されてくるが、三瀬谷ダムで止まってしまって、そこから先にほとんど砂利が供給されていない。ダムや粟生頭首工でせき止められ、砂利が多くて洪水が出るという心配はないと認識している。

(林紘典氏)

流量の回復だけで昔の川が甦るのかやってみないと分からないが、例えば道路の凍結防止剤が流れたり、生活様式の変化など複合的な問題があるのではないかと思う。

(藤田委員)

流量回復は大きなテーマである。50年前は電気を起こして人間に貢献をしてもらった。これからはお返しをしていこうという政策づくりをしていかないといけない。

(西要司氏)

川だけでなく森林の保全が必要である。地球温暖化のこともあるので、国や県も支援を継続して行ってほしいが、現場の作業員が不足しているのが大きな問題である。